

令和7（2025）年度

第1学年

学 習 の 内 容 と 評 価



東京学芸大学附属国際中等教育学校

教科名	国語科	科目名	国語	単位数
学年	1 年		Japanese Language / MYP: Language and literature	4

本科目の目標／伸ばしたい力

- 1 年次は、読み取る力・書く力・聞き取る力・情報を整理する力・話す力について、以下のことを身につけます。
- 文章を読むだけでなく、人の話、さまざまなメディアからの情報を含めて「読み取る力」。
 - 自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手に分かりやすく伝えるための「書く力」。
 - 自分の考えを深めたり、他の人とよりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確に「聞き取る力」や「情報を整理する力」。
 - 聞き手の身になってより分かりやすく伝えるための「話す力」。
 - 言語についての知識やそれを活用する技能。

MYP 評価規準と評価方法

A：分析	i. テキストの重要な側面を特定し、それについて意見を述べる。 ii. 作者の選択を読みとり、それについて意見を述べる。 iii. 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を説明する。 iv. テキスト内および複数のテキスト間で特徴の類似点と相違点を見いだす。	定期テスト・小テスト・課題・発表など
B：構成	i. 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。 ii. 意見や考えを論理的な方法で整理する。 iii. 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。	定期テスト・小テスト・課題・発表など
C：創作	i. 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探求しながら、思考や想像を示すテキストを創作する。 ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。 iii. アイデアを育むために、関連する詳細情報と実例を選び出す。	課題・発表など
D：言語の使用	i. 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。 ii. 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。 iii. 正しい文法、統語法、句読法を用いる。 iv. 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。 v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。	定期テスト・小テスト・課題・発表・書写など

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

基本的に、MYP の評価物を MEXT 評価規準でも評価します。MEXT 評価規準のみで評価する課題等はありません。

知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、言語文化に親しんだり理解したりしている。	定期テスト・小テスト・課題・発表など
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなも	定期テスト・小テスト・課題・発表など

	のにしている。	
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使用おうとしている。	定期テスト・小テスト・課題・振り返り提出・発表などへの取り組み
使用教材		
教科書：『伝え合う言葉 中学国語 1』（教育出版） 『国語便覧』（浜島書店） 副教材：『つなげて覚える漢字の完全マスター』（浜島書店） 『楽しく学べる文法ノート』（数学社）		
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。		
教科書を使用しますが、単元によっては別にプリントや教材を配ります。次のような学習を行う予定です。		
説明的文章	・文章の構成や展開を理解し、筆者の考えを的確に読み取る。 ・筆者の考えを自分の問題としてとらえ考える。	
文学的文章	・表現にそって登場人物の心の動きをたどり、作品全体の構造を把握する。 ・登場人物の心情を読み取りながら、文学の読み方、解釈の基本を学ぶ。	
表現	・身近な日常生活の中から伝えたいことを見つけ、意見をまとめる。 ・自分の意見を他者に分かりやすく正確に伝えるにはどのようにすればよいのか、他者の考えを聞き取るにはどのような点に注意すればよいのか考える。	
古典	・現代語訳を参照しながら作品に触れ、古典に親しむ。 ・古典の世界と現代生活のつながりについて考える。	
国語の特質	・ことばのしくみや役割を正しく理解し、読解や表現の学習に役立てられるようにする。 ・漢字の学習を進めながら漢字や語句への理解を深め、より多くの語彙を獲得する。	
書写	毛筆と硬筆を用いて、正確で読みやすい文字を的確に書く力を養い、書字の基礎を身につける。	
備考		

教科名	社会科	科目名	社会（地理的分野）	単位数
学年	1 年		Social studies / MYP: Individuals and societies	3

本科目の目標／伸ばしたい力

社会科の学習では、次のような「力」を培っていきたいと考えます。

- 新聞やテレビで報道される社会的なできごとに対して知的好奇心をいだく「力」
- 地図や統計資料、写真や映像資料等を読み解いていく「力」
- 社会的な事象に対する自分の考えを、論理的な文章でまとめていく「力」
- 学習した内容を、地図・新聞・レポートなどの形式で表現する「力」
- SDGs（持続可能な開発目標）を意識して、社会的な事象をとらえていく「力」

1 年次では、地理的分野の知識や見方・考え方と関連づけながら、グローバル社会に生きる人間としての基礎的な「力」をつけていきます。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	地理的事象に関する認識と理解の程度を評価します。	小テストや定期試験等
B：調査探究	レポート等の課題に対し、テーマの選択・構成・多面的な情報収集等がどの程度できたかを評価します。	授業中の学習活動、レポート等
C：コミュニケーション	授業中の活動において、自分の考えなどを他者に対していかに的確に伝えることができたかを評価します。	授業中の学習活動、レポート、プレゼンテーション等
D：批判的思考	地図や資料を読み取り、分析できているかを評価します。	定期試験や授業中の学習活動、課題等

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

基本的に、MYP の評価物を MEXT 評価規準でも評価します。MEXT 評価規準のみで評価する課題等はありません。

知識・技能	社会的事象に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめているかを評価します。	定期テスト、課題等
思考・判断・表現	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしているかを評価します。	定期テスト、課題等
主体的に学習に取り組む態度	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしているかを評価します。	振り返りシート、授業中の活動等

使用教材

教科書： 社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土（帝国書院）

地図帳： 中学校社会科地図（帝国書院）

副教材： グラフィックワイド地理Ⅰ・Ⅱ（東京法令出版）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	○世界のすがた ○世界の自然環境 ○世界の人々の生活と文化
2 学期	○世界の中の日本 ○九州・沖縄地方、中国・四国地方、近畿地方、中部地方
3 学期	○関東地方、東北地方、北海道地方 ○身近な地域の調査

備考

教科名	数学科	科目名	数学	単位数
学年	1 年		Mathematics / MYP: Mathematics	4

本科目の目標／伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- ・ 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- ・ 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- ・ 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- ・ 数学が世界で果たす役割を見出す力

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	数学の概念とスキル（技能）に関する理解について評価します。	小テスト 定期試験
B：パターンの探究	様々な場面においてパターンを見出す力や、それを図や式等で表すことができる力、そのパターンの根拠やそれを用いて数学的な結論を導いたりする力を評価します。	レポート 定期試験
C：コミュニケーション	場面や文脈に応じて、適切な数学の記号と言語を選択し、それらを用いて事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を評価します。	レポート 定期試験 振り返り
D：実生活への数学の応用	数学が世界に対して果たす役割について理解を深めるとともに、社会問題や日常生活に数学を応用していく力とその結果を振り返る力を評価します。	レポート 期末テスト

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

基本的に、MYP の評価物を MEXT 評価規準でも評価します。MEXT 評価規準のみで評価する課題等はありません。

知識・技能	数量や図形などについての基本的な概念や原理・法則等を理解しているかどうかを評価します。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかとも評価します。	小テスト 定期試験
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を評価します。	レポート 定期試験
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。	レポート 提出物 振り返り

使用教材

教科書： 中学数学 1・2（教育出版）

副教材： TGUISS 1・2, 教科書傍用問題集

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

4 月～	①数の見方 約数、倍数、素数、素因数などの意味を理解し、整数の性質について考察できるようにします。 また、数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深めます。さらに、正負の数の四則演算ができるようにします。 (主な学習内容) 約数、倍数、素数、素因数、最小公倍数、最大公約数、負の数とその計算
6 月～	②事象の見方 さまざまな事象の変化のパターン、特に、再帰関係にある 2 つの数量間の関係を表・グラフ・式を用いて表すとともに、それらを用いて事象を数学的に考察できるようにします。また、さまざま

な数量間の関係や法則を、文字を用いて、式に表現したり、説明したりします。 (主な学習内容) グラフ、ことばの式、文字の式、一次方程式、文字による説明	
10 月～	③図形の見方 さまざまな空間図形や平面図形の考察を通して、図形に対する見方や捉え方を豊かにするとともに、面積や体積を求めることができるようにします。 (主な学習内容) 投影図、回転体、空間における直線や平面の位置関係、多面体、正多面体、柱体、錐体、球の表面積と体積、扇形の弧の長さや面積、展開図
1 月～	④データの分析 1 変量の統計データを処理する方法として、表やグラフなどを用いた整理の仕方、および、代表値やデータの散らばりを表す数値の意味を理解し、データの傾向を捉える能力を身につけます。 (主な学習内容) 幹葉図、散布図、ヒストグラム、代表値(中央値・平均値・最頻値)、箱ひげ図
備考	
授業進度や実態に応じて順番を入れ替えたり、内容を加えたりする可能性があります。	

2025/4/3 更新

別表 1

TGUISS数学科 カリキュラム対応表

学年	本校のカリキュラム	主な内容	学習指導要領	MYP数学
1	数の見方	整数	1 年	○
		正の数・負の数	1 年	○
	事象の見方	関数の考え	1 年, 数学B	○
		文字式	1・2 年	○
		一次方程式	1 年	○
	図形の見方	空間図形	1 年	○
		投影図	1 年	
		平面図形 (おうぎ形・図形の移動)	1 年	○
		球の体積, 表面積	1 年	○
	データの分析	データの収集	1 年	○
		データの分布と分析	1・2 年	○
2	一次関数と方程式	比例	1 年	○
		一次関数	2 年	○
		一次不等式	数学 I	○
		連立方程式	2 年	○
	平行と相似	平行四辺形	2 年	○
		相似な図形	3 年	○
		作図	1 年	○
	図形の論証	三角形の合同条件	2 年	○
		三角形の相似条件	3 年	○
		三角形・四角形の性質	2 年	○
		円の性質	3 年, 数学A	○
	相関と回帰	相関	数学 I	○
		回帰の考え	なし	○[発展]
3	三平方の定理と三角比	平方根	3 年	○
		三平方の定理	3 年	○
		三角比	数学 I	○
	いろいろな関数とグラフ	反比例	1 年	○
		$y=ax^2$	3 年	○
		べき乗関数	数学 II	○
		二次関数	数学 I	○
		関数のグラフ	数学 I・III	○[上級]
		二次方程式	3 年	○
		集合	数学 I・A	○
	数え上げ	場合の数	数学A	○[発展]

別表 2

一般的な検定教科書		本校の独自テキスト	
学年	内容	学年	単元名
1	正の数・負の数	1	数の見方
1	文字と式	1	事象の見方
1	方程式	1	事象の見方
1	比例	2	一次関数と方程式
1	反比例	3	いろいろな関数とグラフ
1	平面図形	1	図形の見方
1	作図	2	平行と相似
1	空間図形	1	図形の見方
1	データの活用	1	データの分析
2	式の計算	1	事象の見方
2	連立方程式	2	一次関数と方程式
2	一次関数	2	一次関数と方程式
2	平行と合同	2	平行と相似
2	三角形と四角形	2	図形の論証
2	確率	4	確率
2	箱ひげ図	1	データの分析
3	平方根	3	三平方の定理と三角比
3	多項式	3	いろいろな関数とグラフ
3	二次方程式	3	いろいろな関数とグラフ
3	関数 $y=ax^2$	3	いろいろな関数とグラフ
3	相似な図形	2	平行と相似
3	円	2	図形の論証
3	三平方の定理	3	三平方の定理と三角比
3	標本調査	4	統計基礎

教科名	理科	科目名	理科入門	単位数
学年	1 年		Science / MYP: Sciences	4

本科目の目標／伸ばしたい力

1 学年では、物理・化学・生物・地学の 4 科目をバランスよく学ぶ。自然の事物・現象について、科学的な手法を用いて探究するための基礎的な手法を身に付ける。観察、実験を積極的に行い、その基本的な技能を身に付けるとともに、見通しを持った観察、実験を行えるようになることを目指す。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	i. 科学的知識について説明する。 ii. 科学的知識と理解を応用し、見慣れた状況下と見慣れない状況下で起きた問題を解決する。 iii. 情報を分析・評価し、科学的に裏付けられた判断を下す。	・ 定期考査
B：探究とデザイン	i. 科学的研究によって検証する問題または質問について説明する。 ii. 正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を系統的に組み立て、説明する。 iii. 変数の操作方法を説明する。十分かつ適切なデータを収集する方法を説明する。 iv. 適切な材料と設備を選択するための論理的で完全かつ安全な方法をデザインする。	・ レポート課題 ・ パフォーマンス課題
C：手法と評価	i. 数値形式および視覚的形式（またはそのいずれか）でデータを正しく収集し、整理し、変換し、発表する。 ii. データを正確に解釈し、正しい科学的推論を用いて結果を説明する。 iii. 科学的研究の結果に基づいて仮説の妥当性を評価する。 iv. 科学的研究の結果に基づいて方法の妥当性を評価する。 v. 科学的研究に役立つ方法の改善または拡張について説明する。	・ レポート課題 ・ パフォーマンス課題
D：科学による影響の振り返り	i. 具体的な問題または課題への対処に科学がどのように応用され、用いられるかを説明する。 ii. 一つの要因と関係づけながら、具体的な問題または課題の解決に科学とその応用を用いることが与える影響を論じ、評価する。 iii. 科学用語を一貫して応用し、理解したことを明確にかつ正確に伝える。 iv. 情報源を完璧に明記する。	・ 単元ごとの振り返り ・ レポート課題

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	i. 科学的知識について十分に理解を示す。 ii. 実験器具、測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 iii. 定量的および定性的な生データを十分に記録する。 iv. 情報源を完璧に明記する。 v. 科学的知識と理解を応用し、実社会における問題や課題について多面的に述べる。	・ 定期考査
思考・判断・表現	i. 自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べ	・ レポート課題

	る。 ii .正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。 iii .変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。 iv .データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。 v .探究課題に全面的に対応し、提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。 vi .実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。	・パフォーマンス課題 ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	i .実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ii .実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り、改善するための提案について詳しく述べる。 以下の要素の形成的評価や行動観察において、 試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ・探究課題に取り組んだ時の実験ノートやワークシートへの記述 ・課題の提出状況 ・取り組み状況 ・振り返りの記入 ・小テスト ・グループワークへの貢献	・レポート課題 ・単元の振り返り ・小テスト
使用教材		
教科書： 新編 新しい科学（東京書籍）		
副教材： なし		
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。		
1 学期	力の働き、物質のすがた、生物の観察と分類の仕方、身近な地形や地層、岩石の観察	
2 学期	光と音、水溶液、生物の体の共通点と相違点、地層の重なりと過去の様子	
3 学期	状態変化、火山と地震、自然の恵みと火山災害・地震災害	
備考		

教科名	保健体育科	科目名	保健体育	単位数
学年	1 年		Health and Physical Education / MYP: Physical and Health Education	3

本科目の目標／伸ばしたい力

健康に関する基礎的な知識や概念を理解するとともに、学習内容を活用しようとする。

運動の原則やルールについて考えることができる。

一連の動きや技の構成などをスムーズに展開することができ、表現豊かに運動することができる。

運動に対して必要な技術を習得し、それを利用して課題解決を図ることができる。

個人やグループで、簡単な作戦や戦術を使って攻防したり、挑戦したりできる。

他者との連携を図ろうと、協力したり責任感を持って取り組んだりするとともに、コミュニケーションをとることができる。

学習カードの提出等、決められた約束を守ったり、協力して懸命に取り組んだりすることができる。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	定期考査、授業中の学習活動・まとめ等から、健康や運動・体育理論の知識に関する理解度および活用の程度を評価します。	
B：活動の計画	体育ノートの記事や課題等から、明確な目標設定、自己分析提示、段階的な技術習得や練習の工夫、作品づくりの計画がどの程度できたかを評価します。	
C：応用と実践	授業中の活動・技術練習・実践の様子から、自己の動きの分析・練習内容の創意工夫による技術向上や表現ができたかどうかを評価します。	
D：活動の振り返りと改善	授業中の学習活動・体育ノート・課題等から、動きを分析し、異なる見解を整理した上で、どの程度適切に解釈したり評価したりできたかを評価します。	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	体育・体育理論に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	
思考・判断・表現	実践的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・課題等から評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	体育・体育理論を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、授業中の学習活動や振り返りなどの記述から総合的に評価します。	

使用教材

教科書： 中学保健体育（Gakken）

副教材： 中学体育実技（Gakken）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	体育 ① 体づくり運動／スポーツテスト：4 月～5 月 ② 陸上競技Ⅰ（短距離走／リレー）：5 月～6 月 ③ 水泳基礎Ⅰ：6 月～7 月 保健 健康な生活と病気の予防①・心身の発達と心の健康：4 月～3 月
2 学期	体育 ④ 球技Ⅰ（ゴール型）：9 月～10 月 ⑤ 陸上競技Ⅱ（長距離走）：11 月～12 月

3 学期

体育

⑥ 器械運動 I （マット運動／身体コーディネーション）：1 月～3 月

⑦ 体育理論 I （スポーツの多様性）：1 月～3 月

備考

見学する場合は、必ず「見学届」を提出してください。

2024/5/9 更新

教科名	音楽科	科目名	音楽	単位数
学年	1 年		Music / MYP: Arts	1.5

本科目の目標／伸ばしたい力		
1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を養う。		
2 音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創造的に表現する能力を育てる。		
3 多様な音楽に興味・関心をもち、幅広く鑑賞する能力を育てる。		

MYP 評価規準と評価方法		
A：調査	学習する題材そのものについて、あるいは関連する情報や、単元の探究テーマと関連づく事柄について幅広く調査し、分析や批評する力を評価します。	
B：発展	作品や演奏、パフォーマンスに向けたアイデアを創出し、それらを楽譜や DTM、図表で明示し、そのアイデアが妥当であることを説明する力を評価します。また、単元の掲げる探究テーマと関連づけて作品の芸術的意図を説明する力も評価します。	
C：創作・実演	芸術的意図の伝わる成果物や、音楽の演奏、パフォーマンスの実演を評価します。	
D：評価	自他の芸術作品や演奏発表、パフォーマンスについて評価したり、批評したりする力を評価します。自ら評価規準を設定できる力も評価の対象となります。また、	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法		
知識・技能	調査したことを含め、学習した題材の知識や、音楽を形づくる要素そのものへの理解について評価します。また、奏法やパフォーマンスの技法についても評価します。	
思考・判断・表現	音楽を形づくる要素を用いた表現の工夫や、単元の探究テーマと関連する考察や問いの答えを評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	作品や演奏発表に向けたプロセスの記述や自己評価を含む振り返りを評価します。これには、IB の ATL スキルの活用も含まれます。	

使用教材		
教科書：	教育芸術社 中学生の音楽 1 / 中学生の器楽	
副教材：	なし	

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。		
1 学期	・ ISS 校歌の歌唱、校歌の役割について考える【歌唱】 ・ 歌曲から音楽の要素を学ぶ（魔王、O Sole mio、夏の思い出）【鑑賞】 ・ カリブ夢の旅の合唱とアレンジメント【歌唱・創作】	
2 学期	・ 音楽がえがくもの-音楽・美術・言語の関係性-（ヴィヴァルディ「四季」鑑賞）【鑑賞・創作】 ・ ギター演習Ⅰ、ギターの歴史と発展（ギター曲の鑑賞）【器楽】	
3 学期	・ We are the World 歌唱（入学式 新入生歓迎の歌）および鑑賞【歌唱・鑑賞】 ・ 和楽器演習（三味線、伝統音楽体験）【器楽】	

備考		

教科名	美術科	科目名	美術	単位数
学年	1 年		Visual Arts / MYP: Arts	1.5

本科目の目標／伸ばしたい力

美術科では6年間を3段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。3つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。

美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。

1年生はもっとも基礎的な学習をする時期と捉え、授業を展開していきます。

MYP 評価規準と評価方法

A：調査	・様々な文脈における具体的な芸術作品 ・科目特有の用語を使って、調査、プロセス、アイデアを効果的に伝える方法	
B：発展	・さまざまな芸術創作形式、手法、実践の実験に取り組む ・アイデアを実践的に探究することでアイデアを発展させる	
C：創作・実演	・芸術作品の創作に特定のスキルを応用する ・芸術を創作するためにさまざまな方法、技法、実践法を用いる	
D：評価	・自分の創作が、自分の芸術的意図をどの程度達成しているかを考える ・自他の創作が受け手に与える影響を考える ・芸術技法の習得と発達を振り返る ・ATL スキルの発達を振り返る	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表す	
思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考える ・主題を生成し創造的に発想し構想を練る ・価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める	
主体的に学習に取り組む態度	・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情 ・感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度	

使用教材

教科書： 開隆堂 美術 1

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	デザイン 色彩やレタリングの基礎を学びます。相手への効果を意識した作品を制作します。 （主な学習内容・活動内容）色彩、書体、レタリング、ポスターカラーの彩色、鑑賞 鑑賞 美術館でのフィールドワークを行ないます。 （主な学習内容・活動内容）鉛筆等による描写、立体表現、彫塑、美術館鑑賞
------	---

2 学期	絵画 身近な物をみつめ表現することにより、物の見方、表現の仕方の基礎を身につけます。 彫刻 材料の特性を生かした立体作品を制作します。
3 学期	版画・工芸 身近な生活に潤いをもたらす工芸や、文化的表現に関心をもって、作品を制作します。 (主な学習内容・活動内容) 工芸、版画、ものづくり、鑑賞
備考	
* 行事等授業時数の関係で内容が多少変更することがあります。	

2024/5/9 更新

教科名	外国語科	科目名	英語 Core	単位数
学年	1 年		Foreign Languages / MYP: Language Acquisition	4

本科目の目標／伸ばしたい力

1 年次は、コミュニケーションの基礎となる力を身につける学年と位置づけています。

英語の基本的な語彙、文法を学び、話す、聞く、読む、書く力を総合的に伸ばします。また、英語圏文化の理解を深め、コミュニケーション活動を通して、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。

At the end of phase 1 (Emergent Level), students should be able to do the following in simple authentic texts:

Criterion A: Listening

- identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- analyse conventions
- analyse connections

Criterion B: Reading

- identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- analyse conventions
- analyse connections

Criterion C: Speaking

- use a wide range of vocabulary
- use a wide range of grammatical structures generally accurately
- use clear pronunciation and intonation in comprehensible manner
- communicate all or almost all the required information clearly and effectively

Criterion D: Writing

- use a wide range of vocabulary
- use a wide range of grammatical structures generally accurately
- organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of simple and some complex cohesive devices
- communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context

MYP 評価規準と評価方法

A : Listening	動画視聴などを通じて、外国語を聞き取る力を評価します。	
B : Reading	物語や評論の講読を通じて、外国語を読み取る力を評価します。	
C : Speaking	やりとりや発表などを通じて、外国語を話す力を評価します。	
D : Writing	エッセイ執筆などを通じて、外国語を書く力を評価します。	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	言語材料（文法、語彙、表現など）に対する理解や、4 技能の定着を評価します。	
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして、目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え、学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	

使用教材

教科書： NEW HORIZON English Course 1（東京書籍）

副教材： All New Very Easy True Stories（Pearson）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

教科書の学習内容を踏まえて、英語の基礎を学習し、さらに表現の幅を広げます。様々な活動を通して英語力の定着をはかります。自己紹介、日本文化の理解と異文化理解、スピーチ、など。

備考

教科名	外国語科	科目名	英語 Advanced	単位数
学年	1 年		Foreign Languages / MYP: Language Acquisition	4

本科目の目標／伸ばしたい力

1 年次は、上記の目標を実現するための基礎となる力を身につける学年と位置づけています。これまで英語のみならず他教科で蓄積してきた知識を動員しながら、また物事を論理的に検証し、分析するために探究活動を通して、英語で今日的な話題について考えていきます。同時に英語の 4 技能も伸ばしていきます。

At the end of phase 3 (Capable Level), students should be able to do the following in simple and some complex authentic texts:

Criterion A: Listening

- identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- analyse conventions
- analyse connections

Criterion B: Reading

- identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- analyse conventions
- analyse connections

Criterion C: Speaking

- use a wide range of vocabulary
- use a wide range of grammatical structures generally accurately
- use clear pronunciation and intonation in comprehensible manner
- during interaction, communicate all or almost all of the required information clearly and effectively

Criterion D: Writing

- use a wide range of vocabulary
- use a wide range of grammatical structures generally accurately
- organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of simple and complex cohesive devices
- communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context

MYP 評価規準と評価方法

A : Listening	動画視聴などを通じて、外国語を聞き取る力を評価します。	
B : Reading	物語や評論の講読を通じて、外国語を読み取る力を評価します。	
C : Speaking	やりとりや発表などを通じて、外国語を話す力を評価します。	
D : Writing	エッセイ執筆などを通じて、外国語を書く力を評価します。	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	言語材料（文法、語彙、表現など）に対する理解や、4 技能の定着を評価します。	
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして、目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え、学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	

使用教材

教科書： NEW HORIZON English Course 1（東京書籍）

副教材： 『マーフィーのケンブリッジ英文法 （中級編）第4版』（Cambridge）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

新聞、インターネット、文学など多様な題材を用いて、英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。時事、政治、文化、環境、人権、社会、生命倫理、戦争と平和、エネルギー、経済、メディア

備考

2024/5/9 更新

教科名	技術科	科目名	技術	単位数
学年	1 年		Technology / MYP: Design	1

本科目の目標／伸ばしたい力

プロジェクトをはじめとする、技術に関する実践的・体験的な探究活動を通して、現代的な課題に対し、技術の最適化によって解決策を見出そうとする能力や態度を養います。

1 学年は、デザインサイクルの理解を中心に据えています。最もデザインサイクルを理解しやすいと思われる木製品の設計・製作を通して、初めての問題解決に取り組みます。

MYP 評価規準と評価方法

A：探究と分析	課題解決の必要性を説明します。課題解決のために必要とされるリサーチの主要な点を述べ、優先順位をつけます。リサーチの結果、解決に必要な条件を説明します。	プロセスシート（レポート）、定期テスト
B：アイデアの発展	解決策の条件の一覧を作成します。複数のデザイン案を提示し、その中から他者が正しく解釈できる、実現可能なデザインを選択し、その特長を説明します。	プロセスシート（レポート）、定期テスト
C：課題解決	時間やリソースを考慮した計画を立てます。製作にあたり、技術的スキルを提示します。計画に従って作成します。製作にあたり、デザインや計画の変更点を挙げます。	プロセスシート（レポート）、定期テスト、成果物
D：評価	解決策の効果を評価するための適切なテスト方法を考案します。テスト結果から、解決策の効果や、改善点を説明します。解決策がターゲットに及ぼす影響を説明します。	プロセスシート（レポート）

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているかどうかを評価します。	定期テスト、成果物
思考・判断・表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けているかどうかを評価します。	プロセスシート（レポート）
主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしているかどうかを評価します。	プロセスシート（レポート）、振り返りなど ※MYP 評価で扱わない評価物も含まれます。

使用教材

教科書： 『新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology』（東京書籍）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	「材料加工の技術」の製図法を学習し、構想図のかき方をマスターします。また、ラック製作のリサーチを開始します。
2 学期	ラック製作のデザインを定め、「材料と加工の技術」の道具・機械の扱い方や製作方法を学習しながら最終案を固め、計画・製作します。
3 学期	期日までにラックを仕上げ、ラックにより問題が解決できたかどうかを評価します。

備考

隔週（二週間に 1 回）が基本になります。家庭科と交互に行います。

教科名	家庭科	科目名	家庭 Home Economics / MYP: Design	単位数
学年	1 年			1

本科目の目標／伸ばしたい力

実践的・体験的な活動を通して、生活の自立に必要な基礎的な知識と技術を習得する。また、家庭の機能について理解を深め、生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

MYP 評価規準と評価方法

A：探究と分析	i. 家庭生活における課題を解決する必要性をだれもが分かるように説明できる ii. 家庭生活の課題解決に必要な調査のポイントを述べ、優先順位を立てることができる iii. 家庭生活の課題を書き出すことができる iv. 家庭生活に関する調査の結果を発表することができる	ワークシート・ 振り返りシート
B：アイデアの発展	i. 課題解決を行うため必要なことを挙げるができる ii. 実現可能な計画を複数作り、他者によくわかるように発表することができる iii. 選んだ課題解決の方法を1つ提出することができる iv. 選んだ計画を実行するため、要点をまとめた計画図を作ることができる	ワークシート・ 振り返りシート
C：課題解決	i. 資源や時間の効果的な使用について要点をまとめ、家庭生活における課題解決をすることができる ii. 家庭生活における課題解決で優れた技術を示すことができる iii. 計画に従って課題解決を行い、その解決方法を選んだ理由や計画の変更点を挙げるができる iv. 実行した課題解決の方法を発表することができる	ワークシート・ 振り返りシート
D：評価	i. 課題解決の成果を判断するため、簡単なテストの方法の要点をまとめ、データを示すことができる ii. 計画図とは別に課題解決の成果について要点をまとめることができる iii. 家庭生活における課題解決をどのように改善したか要点をまとめることができる iv. 課題解決の成果が家族や地域の人々に与える影響について要点をまとめることができる	ワークシート・ 振り返りシート

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解し、それらに係る技能を身に付けている。	ワークシート・ 振り返りシート
思考・判断・表現	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を身に付けている。	ワークシート・ 振り返りシート
主体的に学習に取り組む態度	自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとしている。	ワークシート・ 振り返りシート

使用教材

教科書： 技術・家庭「家庭分野」（開隆堂）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

年間を通して「家族・家庭生活」「住生活」「消費生活・環境」について学習します。

備考

隔週（二週間に1回）が基本になります。技術科と交互に行います。

教科名	国際教養	科目名	国際 1 ～ 6	単位数
学年	1 ～ 6 年		Global Liberal Studies; The Period for Integrated Studies	1
本科目の目標／伸ばしたい力				
〈1 年〉 様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに対しての耐性を養う。 〈2 年〉 様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。 〈3 年〉 様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。 〈4 年〉 自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。 〈5 年〉 異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。 〈6 年〉 社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。				
文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法				
知識・技能	各学年で開設されている「国際○」の時間は、学習指導要領では「総合的な学習の時間」（前期課程）、「総合的な探究の時間」に対応します。総合的な学習/探究の時間では、数値による評価・評定は行われず、記述による評価がなされます。			
思考・判断・表現				
主体的に学習に取り組む態度				
国際教養群に含まれる各教科の科目に関しては、前期・後期とも各科目で観点を設け、数値による評価・評定を行っています。				
使用教材				
教科書：				
副教材：				
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。				
1 年 「国際 1 」、「Learning in English 1」				
2 年 「国際 2 」、「Learning in English 2」				
3 年 「国際 3 」、「Pre Immersion」、「Learning in English 3」				
4 年 「MYP Personal Project／課題研究」、「Global Issues」、「英語以外の言語」				
5 年 「総合的な探究の時間」「Global Issues」「英語以外の言語」				
6 年 「総合的な探究の時間」「国際 A」「国際 B」				
上記の科目・総合的な学習の時間の他に、1・3・5 年のワークキャンプⅠ・Ⅱ（国内）・Ⅲ（海外）・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。また、1 年から 3 年では、4 年次において PP を完成させるためのスキルを身に付ける学習活動を行います。さらに、5・6 年の「総合的な探究の時間」では、学年の枠を越えた形態で探究活動を行います。				
備考				

教科名	国際教養群	科目名	Learning in English (LE)	単位数
学年	1 年		Learning in English (LE)	2
本科目の目標／伸ばしたい力				
1 年次は、コミュニケーションの基礎となる力を身につける学年と位置づけています。 英語を初めて学ぶ生徒に対しては、英語のシャワーを浴びさせるように最初から授業中の指導言語は英語のみとし、毎日、英語に浸る(immerse)練習をしていきます。英語学習経験のある生徒に対しては、引き続き英語で教科的な内容进行操作する経験を提供します。				
MYP 評価規準と評価方法				
A : Speaking	やりとりや発表などを通じて、外国語を話す力を評価します。			
D : Writing	エッセイ執筆などを通じて、外国語を書く力を評価します。			
文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法				
知識・技能	総合的な学習の時間として、文言評価を行ないます。			
思考・判断・表現				
主体的に学習に取り組む態度				
使用教材				
教科書： （なし）				
副教材： Core クラス： Present Yourself, Q Skills: Intro Reading & Writing Students Book （オックスフォード大学出版局） Adv クラス： Q Skills: 4 Reading & Writing Students Book （オックスフォード大学出版局）				
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。				
(Core) 英語を通して、世界中の様々な時代における興味深い話題を集めた教材をもとに、語彙を増やし、読解力を高め、プレゼンテーション能力を身につけていきます。 Term 1: Present Yourself Term 2: Book Intro Unit 1~3 Term 3: Book 1 Unit 4				
(Advanced) 英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。社会科、数学科、理科など他教科からのアプローチを特に意識し、様々な問題について議論します。 Term 1: Book 4 Unit 1~2 Term 2: Book 4 Unit 3~4 Term 3: Book 5 Unit 5				
備考				